

高原地域におけるイチゴの定植前マルチ栽培

農業研究センター 高原農業研究所

担当者：小野 誠

研究のねらい

高原地域におけるイチゴ「とよのか」の省力・軽作業化および収量の向上を図るため、定植前にマルチを張った場合の効果について検討した。

研究の成果

- 1 定植前マルチは、定植後マルチにくらべ、株出し作業がないので省力的で株の傷みもない。
- 2 定植前マルチは、定植後マルチにくらべ、畦立て・マルチ作業が終了していれば天候に関わらず定植できるので定植の遅れがない。
- 3 定植前マルチは、定植後マルチにくらべ、定植後の活着が早く、生育も早い。
- 4 定植前マルチは、定植後マルチにくらべ、収穫時期が大幅に早まり、年内収量が多くなり、総収量も多くなる。
- 5 定植前マルチは、定植後マルチにくらべ、クラウン径のやや小さい苗を定植した場合でも、生育量が多くなるので収量の確保がしやすい。

普及上の留意点

- 1 普及範囲は、標高300m以上の地域とする。
- 2 未分化の苗を定植した場合、定植前マルチは、定植後マルチより収穫が遅れるので、頂花房の花芽分化を鏡により確実に確認してから行う。
- 3 8月20日より前に定植する場合は白黒ダブルマルチを用いるが、8月20日以降に定植する場合は黒ポリでよい。
- 4 定植前マルチができない場合でも、定植後なるべく早くマルチをすることが望ましい。

表1 マルチを張る時期と収穫開始の時期

定植前マルチ	11月15日
定植後マルチ	12月3日

表2 マルチを張る時期と10アールあたり収量

	年内	5月まで
	kg / 10a	kg / 10a
定植前マルチ	1,155	5,352
定植後マルチ	871	4,603



写真1 定植前マルチ（前方）と定植後マルチ（後方）の生育差